

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	並木テラス		
○保護者評価実施期間	7年3月1日		～ 7年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	7年2月7日		～ 7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動内容が、多様である。室内活動のほか、屋外での体を動かす活動、調理や文化芸術に触れたり体験できる活動を提供できること。	室内活動に限らず、施設外での活動にも積極的に取り組んでいる。また、専門講師による工作やリトミック、英会話体験、調理体験など多くのメニューを提供している。	事業所の室内空間は比較的広いが、障害特性によっては、パーソナルスペースの確保ができていない状況がある。事業所には別室があるので、そうした部屋を上手に活用していくことを検討する。職員の人員確保も必要となる。
2	地域住民や自治会、りんご並木での商業イベントへの参加などが能であること。	りんご並木周辺の商業イベントに参加するなど、地域イベントとの連携事業ができる。地域との交流を深めていきたい。事業所職員のみでの支援ではなく、地域住民の方々との関りの中で成長できる療育環境が整っている。	地域の環境美化活動として、歩道等のゴミ拾い活動を実施したい。
3	様々な社会体験が実践できること。	徒歩による街歩き、公共交通（JRやバス）を利用した移動手段の体験を通じて、一般的な交通ルールや公共交通の利用方法などを事業所活動として体験できる。簡単な買い物体験（コンビニ・スーパーなど）も土曜・祝日中心に可能。建物1階の「並木テラス」を活用して、飲食業のお仕事体験活動を行う。	年間の実施回数をもう少し増やすことで、実社会で生活していくために必要なスキルが向上する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別療育への課題	集団的療育活動は充実しているが、個別療育に重点を置くべきケースに関して、職員1名を専門に配置することが難しく、どうしても、集団活動の中での個別支援にとどまってしまう傾向にある。	・職員の専門性を高める為の更なる専門研修への参加。 ・個別支援が可能となる人員配置。
2	個別療育支援が必要な際の別室の確保が難しい	しっかりとしたパーソナルスペースの確保が必要な児童に対して、十分な空間が確保できないこと。	間仕切りや小さな部屋への異動等で工夫しているが、根本的な解決には至らない。物理的な室内空間をもう少し広く確保するために、施設改修が必要であると考え。数年単位での検討課題とした。
3			